

マキノ地域の古代製鉄跡とその足跡

ふじわらのなかまろとてつげつ
藤原仲麻呂と鉄穴

高島市北部のマキノ地域は、古代の鉄生産、製鉄の一大拠点であった足跡をたどれる地域です。奈良時代の『続日本紀』（天平宝字6（762）年2月甲戌の条）には、藤原仲麻呂（恵美押勝）が朝廷より近江国の浅井郡と高島郡に「鉄穴」を賜ったという記載が

あります。「鉄穴」とは、鉄を生産する製鉄所あるいは原料となる鉄鉱石を採取した場所を指すと考えられ、時の権力者であった藤原仲麻呂が、マキノ地域の鉄生産に関与していたと考えられています。

製鉄遺跡の学術調査

昭和43（1968）年に行われた、同志社大学考古学研究室によるマキノ地域の製鉄遺跡の調査では、北牧野において8世紀代の製鉄炉跡（北牧野製鉄遺跡群）が発見され、製鉄の主な原材料に、鉄鉱石を使用していたことが判明しました。この他、北牧野では、製鉄炉の燃料として使用された木炭を生産した炭窯遺跡（クチナシ谷炭窯遺跡）などが確認されています。

岩との接触帯付近に産出するとされています。マキノ地域では、大谷山や大崎寺周辺で、鉄鉱石の分布が確認されています。

マキノ町石庭から2kmほどの大谷川上流の谷筋には、古代鉄穴の可能性が指摘される「穴谷」と呼ばれる地名やかつて鉄鉱石を採掘したとされる大谷川遺跡が存在します。また、海津大崎付近にはマキノ鉱山跡と称される一帯が存在する他、海津の正行院裏の山腹には、海津大崎まで続いていたと言いつい伝えが残る岩盤を掘り込んだ横穴が確認されています。

古代鉄生産の一大拠点

マキノ地域は、鉄生産に必要な、良質な鉄鉱石、燃料となる材木（炭）、そして、湖上での運搬が可能などの諸条件がそろっていることから、時の権力者が重要視するほどの古代鉄生産の一大拠点であった地域だと考えられています。

マキノ地域では、これらの製鉄遺跡群に先立つ、古墳時代後期（6世紀代）に多くの群集墳が分布する



鉄鉱石の分布

鉄生産の原材料に用いる鉄鉱石は、地学的に古生層とその後に形成された花崗



正行院（海津）裏山の横穴

ことから、古代の先端技術である鉄生産をつかさどっていた技術集団との関連性が想定されています。

岡文化財課 ☎ (25) 8559

編集感

うだるような暑さはどこへやら、すっかり過ごしやすい季節になりました。

店頭にもサツマイモやクリなど、秋味のお菓子やスイーツが並び始めると、「ああ～秋が来たなあ～」とついつい買い込んでしまいます。

秋味のお菓子をもって、ヒガンバナやコスモスが咲く市内をドライブしたり散歩したり…それだけでちょっとしたお出かけ気分になってオススメです (^ω^)♪ (Y.H)



広報たかしま

令和2年

10

月号 No.249

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
〒519-1502 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740 (25) 8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp